

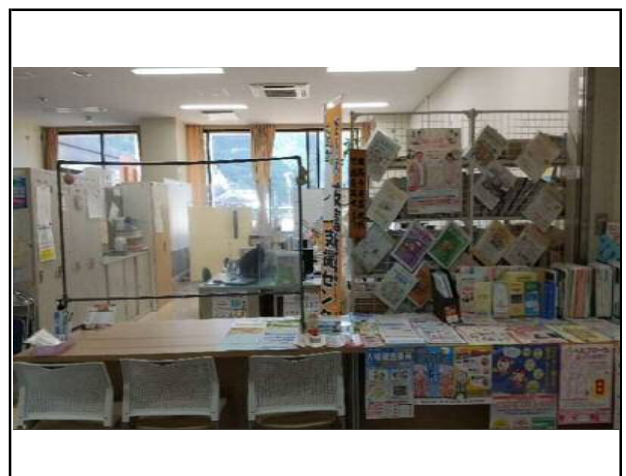
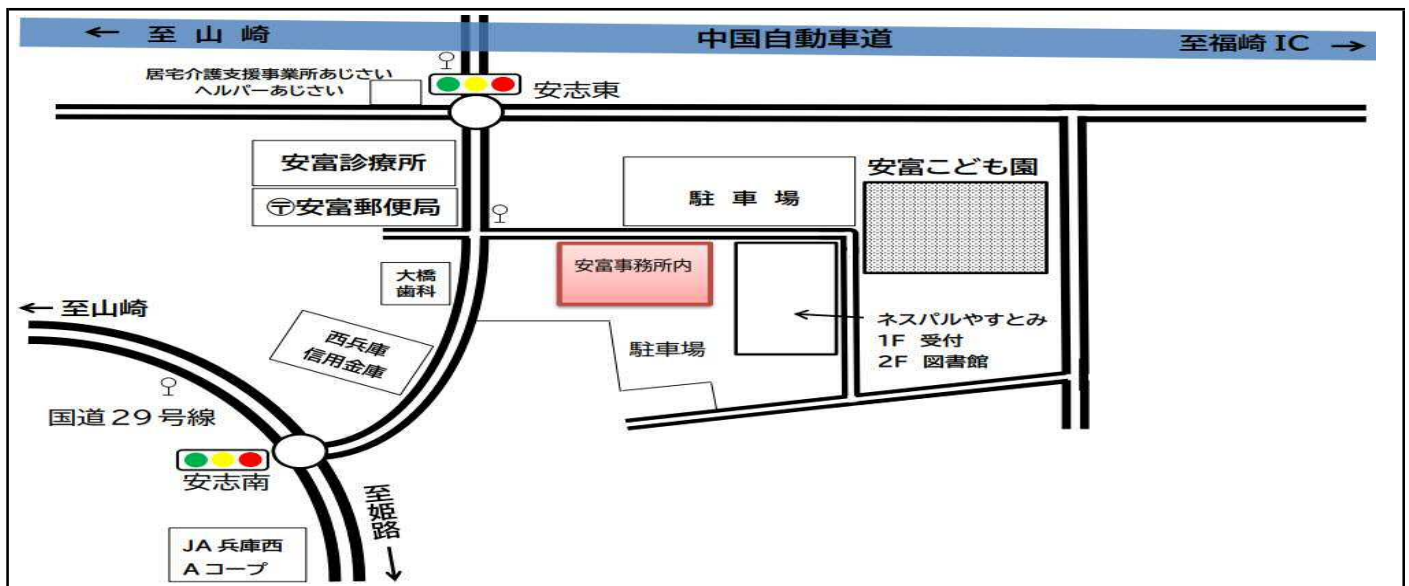
地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市安富地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人きたはりま福祉会
所在地	〒671-2401 兵庫県姫路市安富町安志1151
電話	0790-66-4357
FAX	0790-60-3001
ホームページURL	

【センターの案内】

センターまでの交通手段	神姫バス 姫路駅～山崎の「安富事務所前」で下車、もしくは「安志」下車で徒歩6分。 姫路駅～グリーンステーション鹿ヶ壺の「安志東」下車で徒歩3分。
-------------	--



【センターが所在する地域の特徴・特性】

姫路市の北西部に位置し、西は宍粟市に接しています。中国山地の山々がつながる森林丘陵・田園地帯で、地域の中央を南北に林田川が流れています。最北部に位置する関は自然豊かな観光名所で案山子を見に訪れる人も多くあります。

地元で愛着がある方が多く、多世代で居住されている家庭も多く存在する半面独居世帯も増えてきています。

安富町全体の人口は令和5年9月時点で4,620人で平成20年より約1,220人減少しましたが、高齢者は1,636人と約340人増加、高齢化率も22.8%から35.4%と高くなっています。また中心地から離れるにつれ高齢化率が上がる傾向にあります。(令和5年と平成20年の9月30日現在の比較)

このように人口減少と高齢化が進んでいますが、住民同士、特に高齢者同士での見守りが残っている地域でもあります。

姫路市内で2番目に広い地域ですが、公共交通機関がバスのみでルートも限られているためマイカーの必要性が高い地域です。とくに北は1日1~2便と少ないのが特徴です。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

・数年前より継続してフレイル予防に取り組んでおり、栄養、口腔ケア、運動、社会参加の大切さを伝えていきます。

・寺院の報恩講など、通いの場では出会えない方々に出会う機会を作り、認知症やフレイルの早期発見と予防の情報提供を行っています。

・寺院の報恩講や通いの場、集いの場で消費者被害等の情報の交換と啓発や、季節に応じた啓発(熱中症や脱水予防、ヒートショック、火災予防など)を行っています。

・長野総合センターの事業と介護予防の取り組みとをコラボレーションして、地域住民の介護予防意識向上に向けた講座を、様々な出前講座を組み込みながら行っています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

年齢が高くなっても集いの場参加者同士で声を掛け合い、支えあいながら参加が継続できます。

地域住民が意識を持ってフレイルや認知症予防及び進行予防に取り組み、また役割を持つことでいきいきと過ごすことができます。

困りごとを地域全体で受け止めることができるよう、地域の団体や様々な機関と連携が図ることができます。

地域の課題に向けた取り組みが、地域住民主体となって起こり、誰もが住みやすい地域づくりを目指すことができます。

地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市安富地域包括支援センター
評価調査者名	寺岡芳孝 竹中啓介 高原洋一

【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

【地域包括支援センターの周知】

地域の広報活動と周知について、年4回介護サービスの相談先以外の役割として、多岐にわたる活動事例を「センターだより」で地域住民に分かりやすく、イラストや写真入りでカラー版A3サイズで高齢者にも見やすく構成され、地域活動の場や自治会・関係機関などに配布されています。

【高齢者が通える場があるまちづくり】

地域の通いの場(いきいき百歳体操・認知症サロンなど)で、介護予防の啓発やいきいき百歳体操でフレイルチェックを実施するとともに、認知症サロンではDASC-21(アセスメントツール)も実施されています。さらに、地域の寺院(5か所)で「出張相談会」を行い、フレイル予防啓発として「地域の通いの場」への参加を促しております。

【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

【地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み】

現在、「生活支援体制検討会議」の開催には至っていませんが、日程調整中とかがっていますので、今後の実現に期待します。

【認知症にやさしい地域づくり】

今後「認知症サロン」の運営支援として、事業所や地域の民生児童委員の協力のもと、認知症サポーター、あんしんサポーターなどの活躍の場としても、社会福祉事業所とコラボレーションした「新たなサロン」の開拓が期待されます。

【市民(住民)からの意見やコメント】

立地条件的には自然豊かな森林丘陵や田園地帯で観光名所(案山子の里)もありますが、公共交通機関がバスのみで本数も少なく、利便性ではマイカー中心となっています。また、社会資源も少なく商業施設なども街中に限られて、隣接の宍粟市内に出かけられる人も多いとかがいました。総合相談の中で生活に必要な社会資源リストやマップ作りにも配慮が期待されます。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

今後も出張相談会等で、認知症やフレイルの早期発見と予防の情報提供を行い、通いの場への参加を促していきます。

安富地域包括支援センターだよりに、今後も地域活動やフレイル予防等の様々な情報を掲載し、住民に周知していけるよう、自治会や関係機関に配布し、連携していけるように努めていきます。

年齢が高くなっても通いの場への参加が続けられるよう、参加者同士で考えていただいたり、様々な提案を行いながら支援をしていきます。

安富町だけの資源リストにとどまらず、近隣市町の資源についても情報収集し、安富町の高齢者が使いやすい資源リストや資源マップを作っていきます。

生活支援体制検討会議開催については地域のキーパーソンと話し合いを行い、開催に向け支援を行っていきます。

		地域包括支援センターの体制確保
評価項目・着眼点		(基本的な考え方) 地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。
		① 地域包括支援センターの周知 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
		② 専門性を生かした地域包括支援センターの運営 専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。
		③ 地域包括支援センターの業務の効率化に向けた取り組み オンラインミーティングをはじめとする業務のICT環境の整備や事業の整理・統合など、業務の効率化に向けた取り組み
センター記入欄	取り組みの状況	①地域包括支援センターの役割について、年に4回発行の安富地域包括支援センターだよりに掲載し、全戸回覧と掲示で周知を図っています。また、自治会総会や老人会総会でも包括の役割について説明を行っています。 ②安富地域包括支援センターは安富町の高齢者人口に合わせ、4職種のうち3職種の配置となっています。そのため担当の専門知識はもちろん、担当外の職種についても研修受講や情報交換を行い、対応力向上がはかれるよう努めているところです。 ③業務効率化・改善は今後の課題です。
	現在課題と感じていること	基本職種スタッフの確保はできており各自研修にも積極的に参加していますが、経験不足もあり対応力を向上させていくことは今後も必要です。またICT環境整備など業務の効率化は今後も課題です。WEB研修は参加していますが、コア会議などをオンラインでするとなると他事業所との間に防音となる仕切りもなく、また通路に面していることから、チャット機能を活用することとなりますが、効率化として課題が残ります。
	目標達成のための今後の取り組み	対応力向上となる研修などには積極的に参加します。 ICT環境整備など業務の効率化に向けた取り組みについては、今後も統括責任者を通し法人へ提案していきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	【地域包括支援センターの周知】 地域の広報活動と周知について、年4回介護サービスの相談先以外の役割として、多岐にわたる活動事例を「センターだより」で地域住民に分かりやすく、イラストや写真入りでカラー版A3サイズで高齢者にも見やすく構成され、地域活動の場や自治会(回覧)・関係機関などに配布されています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	【専門性を生かした地域包括支援センターの運営】 「西北ブロック(安富包括)研修会」を年4回開催して、「ケアマネジメント力を高め、多職種の連携や介護保険制度以外の制度を理解し、プランに反映することができる。」目標として実施されています。また、「北準基幹地域包括支援センター圏域連絡会」が年5回開催されて、情報共有や意見交換が実施されています。多様な多岐にわたる業務に向けて、より専門性や対応力向上に期待がされます。

評価項目・着眼点	基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実	
	(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。	
		介護予防に関する認識の変革
	①	85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
	高齢者が通える場があるまちづくり	
②	介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。	
センター記入欄	取り組みの状況	・通いの場でフレイルチェックを実施し、生活機能や認知機能低下の危険因子の早期発見を行い、必要に応じて医療や中央保健センター安富分室と連携し、支援につなげられるように努めています。 ・自治会長や老人会長に出会った際や、広報誌を活用してフレイル予防の情報や通いの場の参加希望者や立ち上げ希望グループを募っています。 ・寺院にて出張相談会を行い、フレイル予防の情報と合わせてフレイルチェックを行い、通いの場への参加を促しています。
	現在課題と感じていること	通いの場への参加については、移動の課題と認知機能低下の課題が重なってあることが多く、参加者の増加に結びつける難しさがあります。安富町は人口が少ないわりに面積が広く家々は点在し、会場までは距離があるため通いの場に行ける85歳以上の方はごく一部となっています。
	目標達成のための今後の取り組み	・年齢が高くなっても通いの場で参加者同士で声をかけ合い、支え合いながら参加が継続できるように促していきます。 ・出張相談会の開催を継続し、フレイル及び認知症の早期発見、早期介入ができるように地域住民団体との連携強化に努めます。 ・早期から介護予防の取り組みが行えるよう、通いの場以外の地域活動の場にも出向き、フレイル予防について継続して情報提供を行っていきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	【高齢者が通える場があるまちづくり】 地域の通いの場(いきいき百歳体操・認知症サロンなど)で、介護予防の啓発やフレイルチェックを実施するとともに、認知症サロンではDASC-21(アセスメントツール)も実施されています。さらに、地域の寺院(5か所)で「出張相談会」を行い、フレイル予防啓発として「地域の通いの場」への参加を案内されています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	「通いの場」への参加については、移動手段などの課題があり、特に年代が高い人の参加が困難な様子が見えます。参加者同士で支えながらの参加を促されていますが、「介護支援ボランティア(安心サポーター)」の活用が期待されます。

評価項目・着眼点	基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築	
	(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。	
	①	地域包括支援センターの相談機能強化
		地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
②	世代や分野を超えた地域のつながりの構築	
	地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。	
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相談については、随時若しくは毎朝のミーティングで共有すると共に方針について全職種で話し合っています。また必要に応じ他機関へも相談し繋いでいます。 ・専門知識の向上を目指し積極的に研修に参加し、参加後は包括内で情報共有も行っています。 ・地域の民生委員・児童委員協議会定例会に関係機関とともに出席し連携を図るとともに、中央保健センター安富分室や姫路市社会福祉協議会、姫路市成年後見支援センターとも連携を図っています。
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・各自研修に積極的に参加していますが経験不足もあり、相談対応力を向上させていくことは今後も必要です。 ・支えあいが残っている地域ですが、支え手と支えられ側とがはっきりと分かれてきており、支え手が疲弊・高齢になるなどで減少しています。地域支えあい会議などを紹介啓発していますが、公的な支援での対応を希望する声が多く、また必要以上の関わりを敬遠する人も増え、進まない現状があります。 ・多くの他分野の相談所が安富町から遠く、また訪問による相談対応をされていないため、相談や連携の難しさがあります。
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・困難事例や虐待に関する研修、相談業務に活用できる研修に参加すると共に情報収集を行い、活用しやすいよう情報整理を行います。 ・両連合自治会長を中心とした生活支援体制検討会議の開催に向けて、準基幹地域包括支援センターや関係機関と共に考えていきます。 ・地域支えあい会議については啓発を続けていきます。 ・他分野の相談所については情報交換を行っていきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	【地域包括支援センターの相談機能強化】 休日・時間外は、受託法人きたはりま福祉会姫路事業所「あじさいホーム」に転送対応となり、緊急時は統括責任者や管理者などに連絡がはいるよう対応がされています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	年4回発行される「広報誌(センターだより)」や総合相談の中で「権利擁護(高齢者虐待、成年後見制度、消費者被害など)」の情報提供がされています。さらに、啓発活動として「センターだより:特集版」などが期待されます。

評価項目・着眼点		基本目標3:地域で暮らし続けるための支援の充実	
		虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。	
			多様なサービスの活用
		①	地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。
		②	地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み 地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。
	地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み		
	③	高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。	
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーを対象としたブロック研修にて地域の通いの場の情報を提供し、インフォーマルな社会資源活用も含めた介護予防支援を効果的に行えるよう働きかけています。 ・令和4年度は地域支えあい会議を4回開催し、支援者や関係機関と連携が取れるよう努めています。 ・安富地域包括支援センターだより配布時や自治会や老人会の総会などで地域の支援について情報提供し、体制づくりを考えていただく機会となるよう働きかけています。 	
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーに認知症初期集中支援事業の情報提供を行っていますが、活用に至っておらず、今後も更に説明と提案を行っていく必要があります。 ・地域に活用できるサービスや資源が少ない。地域のキーパーソンとなる人へ役割が集中しており、余裕がなかったり疲弊している姿が見られることから協力を依頼することが難しいところがあります。 	
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、老人会、民生委員など地域関係団体と連携を図り、地域の課題について一緒に考える機会を増やせるよう努めます。 ・地域の通いの場や地域リハビリテーション活動、介護予防・生活支援サービス事業、認知症初期集中支援事業など様々な制度を活用できるよう、地域住民団体や地域内の事業所に対して情報提供と提案を行います。 	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<p>【多様なサービスの活用】 多様なサービスとして「地域リハビリテーション活動」に取り組まれています。</p> <p>【地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み】 地域高齢者の個別課題の解決に向けた「地域支えあい会議」の開催が4件ありました。「報告シート」に挙げられない事例もあつたかと思いますが、 「相談記録」であっても活動状況は報告できる仕組みが必要と思ひました。</p>	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<p>【地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み】 現在、「生活支援体制検討会議」の開催には至っていませんが、日程調整中とあつたかがつていますので、今後の実現に期待します。</p>	

評価項目・着眼点	基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現	
	認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取り組みを推進します。	
	①	認知症にやさしい地域づくり 認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
	②	認知症になるのを遅らせるための取り組み 高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
センター記入欄	取り組みの状況	・安富中学校2学年を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい理解や対応のポイントを伝えていきます。その他認知症サロンに認知症サポーターが参加しています。 ・通いの場だけでなく寺院やあじさいまつりでフレイルチェックを実施し、認知症の早期発見、早期対応に努めています。 ・認知症ケアパスの活用や地域活動の情報収集に努めており、症状に応じた情報提供を心掛けていきます。
	現在課題と感じていること	・地域内の認知症サポーターの把握が一部しかできておらず、全体の把握ができていません。認知症サポーターとしての役割や活動機会を一緒に考えていくためにも認知症サポーターの把握をしていくことが必要です。 ・通いの場への参加者の高齢化、通いの場までの移動の問題、後継者不足もあり参加者が増えていません。 ・中央保健センター安富分室と随時相談できる体制はできていますが、認知症初期集中支援事業を活用するまでは至っていません。
	目標達成のための今後の取り組み	・通いの場などの地域活動への参加が、認知症予防に繋がることを地域住民に啓発していきます。 ・地域内で認知症サポーター養成講座の開催できるよう働きかけていきます。開催時には認知症サポーターとしての活動意思やどのような活動をしたいかを確認し、希望者とともに活動機会を考えていきます。 ・地域内で認知症の理解を高めていき、地域での支えあいや見守り体制の構築に繋げていきます。 ・認知症相談に対して、適切な事業や制度の活用に繋げていきます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	安富中学校で「認知症サポーター養成講座」が開催されています。「認知症サロン」や「通いの場」「寺院での相談会」でフレイルチェックなどを実施して、認知症の早期発見・早期対応に努められています。成年後見制度の利用促進や認知症ケアパスなどの説明もされています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	【認知症にやさしい地域づくり】 今後「認知症サロン」の運営支援として、事業所や地域の民生児童委員の協力のもと、認知症サポーター、あんしんサポーターなどの活躍の場としても、社会福祉事業所とコラボレーションした「新たなサロン」の開拓が期待されます。